

「チェンソーと軽トラ」で森・人・地域を元気にする林業！

温海町森林組合の新たな取組み

温海町森林組合は、組合員の自伐林業ではこれまで大半が切捨てされ、お金に換えることができなかった間伐による短尺材（二m材/B材）の現金買取を開始しました。

さらに、今年度から鶴岡市のやまがた緑環境税を活用した山の活動体験事業と共催し、山林所有の後継者やサラリーマンの定年退職者などを対象に、地域の山を育て活用できる林業人の育成を目的として「サラリーマン林太郎」と題し、実践を交えた講習会を実施しました。その取組の内容について紹介します。

◆取組みの概要とねらい

温海町森林組合では、これまで合板用として出荷していた短尺材を原料とする「ラミナ生産」の製材施設を新たに設置し、一昨年十一月から稼働を始めました。一方、温海地域にはチェンソーと軽トラを所有している農林家が多くいます。

このことから、現金買取制度として、末口径十四cm以上の二mに玉切した短尺材を軽トラック（組合員は小型トラック可）などに乗せ、組合



の製材施設に直接搬入するとその場で現金を支払い買取するシンプルな「軽トラ林業」の仕組みを作りました。軽トラとチェンソーがあれば、

低質材でも林道などが近くにあると誰もが簡単な林業で、収入の大小はあれ稼ぐことができます。そこで、この現金買取制度とともに、森にある資源の活用を広く進めるため、講習による実践活動をおして多くの林業人を育成し、森・人・地域が元気になることをねらいとしました。

◆軽トラ林業の状況

軽トラ運搬による短尺材の現金買取制度は、総代会と広報で情報を発信したうえ、昨年の七月から受入を開始しました。これまでの実績は約十九mの搬入があり、総本数二〇二本で平均径が約二十二cm、軽トラ換算で三十七台、一台当りの買取価格の平均は三千五百円となっています。

地域経済や製材施設の年間必要量への実質的な効果はともかく、実践する林業人が出てきたことは、今後につづく成果と期待されます。

なお、組合員を対象とした短尺材の買取価格などは次表のとおりです。

長さ	末口径	1本単価(税抜き)
2m	14cm	150円
2m	16cm	200円
2m	18cm	450円
2m	20cm	560円
2m	22cm	670円
2m	24cm	800円
2m	26cm	1,000円

※上記以上の径級単価設定もあります。

(注) ・材種 スギ材
 ・長さ 2m+10cmまで
 ・曲り 矢高 5cm以内
 ・その他 割れ、腐れ、虫など条件有り

◆「サラリーマン林太郎」の実践講習

一年目である今年度の「山の活動体験事業」は、現金買取制度の活用を考慮した講習内容とするなど、二回開催しました。

①チェンソー取扱編(六月二十五日)

年齢も幅広い二十六名の参加を得て、午前中にはメーカーの技術指導員を講師に招き、チェンソーの仕組み、目立技術、メンテナンス方法などの講義を行い、午後から組合員の間伐対象林分を借りて、二班に別れ選木、伐倒、枝払い、玉切り、最後に軽トラへの積み込みまでの実践講習を実施



しました。若い人の中にはチェンソーを扱うのは初めての方もおりましたが「経験を積みれば大丈夫」と励まされるなど、

②キノコ植菌編(七月二十二日)

二回目の講習会は専門の「きのこアドバイザー」を講師に、雑木を活用したキノコの栽培方法、菌種の適木、毒キノコの見分け方などの講義を受け、最後に植菌体験を行いました。受講生は十名



ではありましたが、枯れナラ活用について質問するなど、内容の濃い講習会となりました。

◆つづいて

人工林資源は豊かになり、使う林業へとシフトしている時代、森に関心を寄せ、林業に意欲を高めていただくため「楽しみあり誰でもできる林業」の普及に向け、この取組みは継続していきます。